

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和8年(2026年)

8-9月号

(通巻 225号)

2026年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



オバシギ
渡り途中のオバシギの群れが干潟に
立ち寄りました。東京湾奥に残る干潟は
渡り鳥にとってかけがえのない場所です。

自然博物館収蔵写真

撮影日:2021年9月13日 撮影地:市川市東浜 三番瀬

P1 ☀️ いきもの写真館
オバシギ

P2 ☀️ センサーカメラを使った調査-3
/ 3
その他の哺乳類

P4 ☀️ 花を透明にして観る
カリガネソウ

P5 ☀️ 市川自然のトピック
街中で遭遇する
「大きな」イモムシ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから
クマゼミの鳴き声を聞きました

P6 ☀️ ミニ解説 市川市域
谷津の土地利用

P7 ☀️ わたしの観察ノート
5～6月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



その他の哺乳類

センサーカメラ（自動撮影装置）の利用で、哺乳類に関する情報が飛躍的に増加しました。かつては足跡や食痕、糞などしか情報がなく、センサーを用いたフィルムカメラで姿が撮れるだけでも大成果でした。いまでは姿はもちろん行動の一端を垣間見ることもできるようになりました。

ニホンノウサギ

ニホンノウサギは郊外では決して珍しい動物ではありませんが、東京23区に隣接する市川市域にいまなお生息することは驚きの事実かもしれません。タヌキやハクビシンのように都市化に適応できるわけでもなく、また、走って逃げる以外に身を守る術もない弱い存在だからです。実際、市川市域に生息すると言っても梨園が広がる大町地区に限られた話です。ただし、2023年4月以降はセンサーカメラの記録がありません。

動画で記録されたニホンノウサギは、両耳をいつも立ててあたりを警戒して慎重に行動していますが、無人撮影なので案外、のんびりしているようにも見えます。短く刈られたようなジャノヒゲ類はノウサギの食痕とされますが、実際、ジャノヒゲ類を食べている様子が写っていました。また、シラカシの地上付近の枝で葉を食べている様子も写っていました。シラカシの葉とノウサギは、動画を見るまでは結びつく存在ではありませんでした。



アカネズミ

動画、特に白黒の動画でネズミ類を判別することは困難です。なので、ここではアカネズミとしますが、それは別のカラー写真に基づいた判断です。

アカネズミは時々写る存在です。撮影ポイント「けもの道」の倒木の上を走ったり、撮影ポイント「水場」のまわりに姿を現します。



アナグマ

アナグマは、2021年に1回、2023年に1回撮影され、2025年に10回撮影されました。2026年は解析が終わっている3月中旬までの段階では撮影がありません。なので、長田谷津の哺乳類相の中にアナグマをどう位置付けるかは、まだ未確定です。現時点では巣穴も見つかっていないので、移動中の個体が断片的に撮影されたと考えるのが妥当かもしれません。ただ、長田谷津に移動個体が現れたのだとすると、アナグマは、タヌキやハクビシン同様、都市進出をはかっているのかもしれませんが。昭和の時代、野生の哺乳類は退却一方でしたが、風向きが変わったようです。アナグマのほかにも、キツネ、イノシシ、キョンなどは都市進出の傾向が見られます。



アライグマ

特定外来生物であるアライグマの分布拡大が止まりません。長田谷津では2019年のセンサーカメラ設置当初から写っていて、撮影回数はつぎのように推移しています。

2019年 3回、2020年 0回、2021年 3回、2022年 3回、2023年 34回、
2024年 59回、2025年 69回、2026年 76回

※2026年は1月から3月までの集計。各年、同一個体の連続撮影もカウントしています

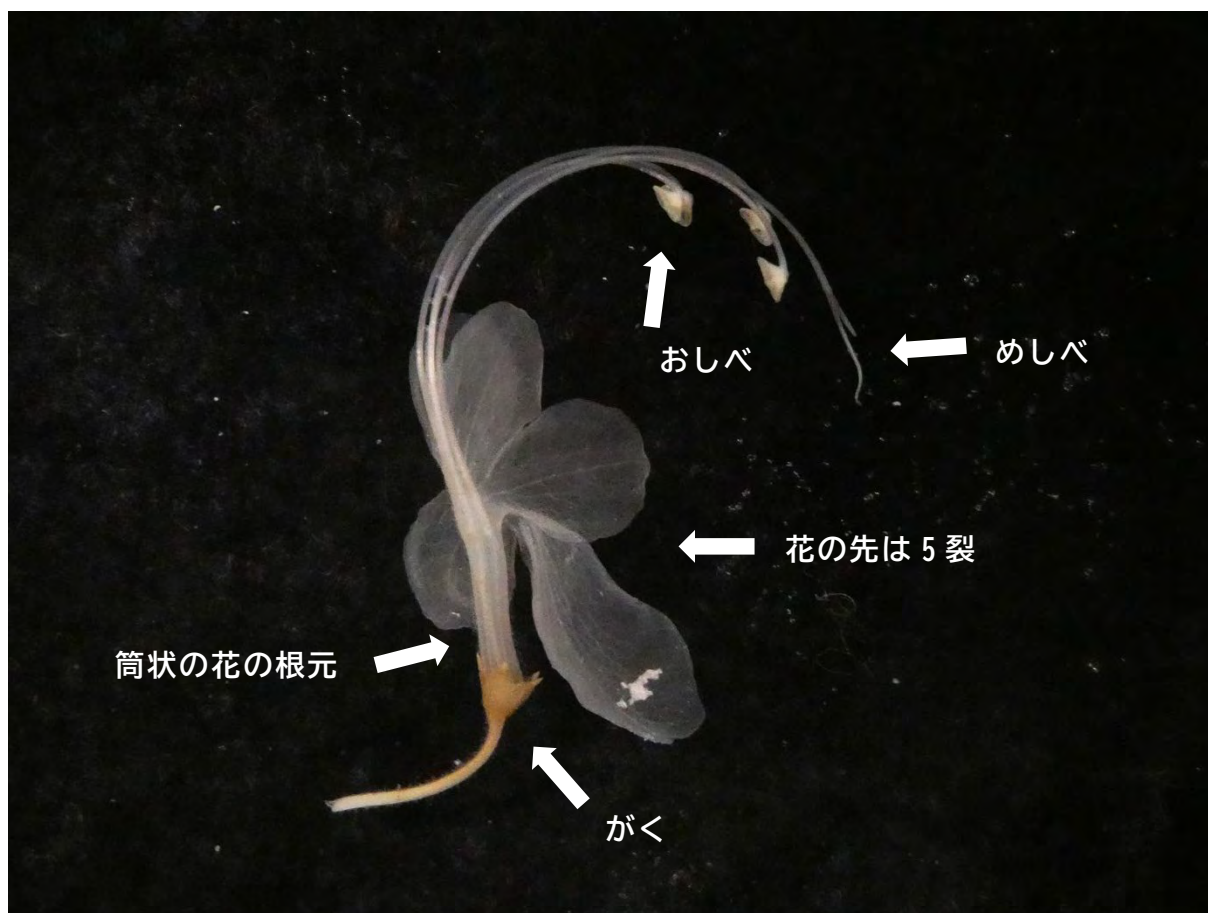
そしてついに繁殖が確認されてしまいました。掲載した写真は2026年6月27日に写った動画の切り取り画像です。幼獣は可愛い姿ですが、この幼獣が成長して死ぬまでにどれだけの野生生物が食べられるかを考えると心穏やかではありません。アライグマは外来生物ですから、生態系のバランスには組み込まれていません。一方的に食べ散らかす存在です。その場所の生態系が受けるダメージは計り知れません。



花を透明にして観る*****

カリガネソウ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしまいましたが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしまいましたが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



カリガネソウの花

- ・花の形は特徴的で、鳥のカリガネ（雁）に見立てたというが、どこが雁の姿なのか、いまいちよくわからない。
- ・花は筒状で、途中から大きく5つに分かれている。5つに分かれた裂片が筒部の進行方向にラッパのように開くのではなく、筒部の先から直角に水平方向に向かって開いているため、パッと見た感じは、5枚の花弁（花びら）がある花に見える。
- ・雄しべと雌しべは、筒部を通して花の上部に大きく突き出ている。
- ・印象は異なるが、ホトケノザの花と構造はよく似ている。

市川自然のトピック

街中で遭遇する「大きな」イモムシ

意外な人気者 大きなイモムシ

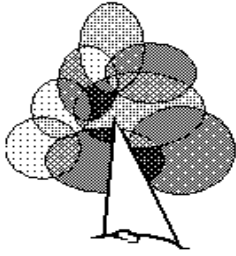
自然博物館では身近な生物の飼育展示を行っています。その中で意外と人気なのが、イモムシの展示です。アゲハチョウのような可愛い見た目のイモムシよりも、大きくて重量感がある種類への関心の方が高いようです。展示をご覧になった方に話を伺うと、「道で見かけるので正体が気になっていた」「庭にいて毒があるのか知りたかった」「子供が持ってかえって来て困った」など多くの方が実際に遭遇していることがわかります。今回は夏から秋にかけて市川市域の街中で遭遇する、大きなイモムシを紹介します。

街中にいるスズメガの幼虫

大きくなるイモムシの中で、街中で遭遇する可能性が高いのは「スズメガ」というグループになります。スズメガは大型のガの仲間で、成虫は主に夜間に活動します。幼虫にはどの種類も尾角(びかく)と呼ばれる尾のような突起があります。糞は大きく俵型で、幼虫がいる場所の下は糞で真っ黒になっていることが多いです。また、どの種類も無毒です（触っても大丈夫です）。

 『セスジスズメ』 ☆9cm ●ホウセンカ ユウゲショウ サツマイモ ヤブガラシ サトイモ コマツヨイグサ ◇数が多く、よく目立つので最も認知度が高い 尾角をピコピコ動かしながら歩く	 『クロメンガタスズメ』 ☆11cm ●トマト ナス ピーマン ジャガイモ ノウゼンカズラ アメリカデイゴ クサギ ◇触ると「カチカチカチ」と音を出し、頭を振る 緑色と褐色がいて、稀に黄色がいて
 『シモフリスズメ』 ☆10cm ●オリーブ トネリコ ネズミモチ クサギ キンモクセイ ノウゼンカズラ ◇模様は個体差があり、茶色が入る個体も多い オリーブを丸坊主にする犯人	 『オオスカシバ』 ☆7cm ●クチナシ ◇庭や公園のクチナシを丸坊主にする 成虫はスズメガにしては珍しい昼行性で、 ホバリングしながら花の蜜を吸う

写真 左：幼虫 右：成虫 『』種名 ☆幼虫の大きさ ●食べる植物（街中によくある植物）◇特徴



クマゼミの鳴き声を聞きました

7月20日早朝、八幡あたりで、ミンミンゼミが鳴きました。今年になって、京成八幡駅付近の大きなお屋敷と、近所の数軒の、木が茂った一戸建てが取り壊され、更地になりました。ニイニイゼミや、アブラゼミの鳴き声を、近所では、まだ聞いていません。庭木や土が見えない場所が多くなっているから、セミが少ないのでしょうか。

24日、大柏川沿いのサクラと、中山団地で、クマゼミの鳴き声がしました。南大野の公園辺りで、毎年クマゼミが鳴いています。今年は川沿いの複数のサクラにいます。数も増えたと、範囲も広がったようです。

静岡県出身の母が、「東京や千葉にクマゼミはいないね」と、かつて言っていました。20年位前、神奈川県の小田原城で、クマゼミを見ました。数年後には、小田原市内のいたるところで「シャワシャワシャワ」と、大合唱していました。「大田市場の近くの公園でクマゼミが鳴いている」と、自然博の方から聞き、2018年8月14日に行くと、車で通り過ぎただけでも、たくさんいるのが、わかりました。クマゼミが住んでいる地域の植木と共に、地中のクマゼミの幼虫も移動して、思わぬところで羽化しているのかも…。

(M. M.)

≡ 二 角 平 言 究 No.9

市川市域

谷津の土地利用

谷津では、台地の上に降った雨がしみこみ、地中をゆっくり移動し、あるいは蓄えられて、最終的に湧水として谷底に流れ出します。台地の上は水はけがよく、谷底には水が溜まります。そのため、台地の上と谷底では土地利用が大きく異なっています。図は、明治時代の地形図です。現在の堀之内貝塚と小塚山公園があるあたりで、道免き谷津と呼ばれる大きな谷津があります。図中、「田」「畑」「松」とあるのは当時の土地利用を示していて、谷底が田、台地上が畑、谷底と台地をつなぐ斜面が松の斜面林になっています。なぜ田んぼに水を張るのか、という質問を時々受けますが、結局のところ、水がたまる湿地で育てることができ作物が稲だった、ということが前提の話です。そのため稲作が規制されると、谷底はすぐに宅地になってしまいました。





◆長田谷津より

- ・シダレヤナギの葉に大きなコムラサキの幼虫がついていました(5/8)。
- ・コムスジがイボタノキの花に来ているのを初めて見ました(5/17)。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・田んぼの水を減らして代掻きをしました(5/25)。尾がなくなったばかりのアカガエルの小さな成体が、泥の上を右往左往していました。
- ・ニホンアカガエルがよく産卵する場所で、ヒバカリを見つけました(6/9)。アカガエルの子ガエルがたくさんいるので、餌を捕りに来たのでしょう。
- ・斜面林にオオバノトンボソウが何株かあって、花茎が伸びていくつかは開花していました(6/22)。
- ・今シーズンは、台風がかかわっていることを除けば、標準的な梅雨の気候です。じめじめした林の中にマヤランを見つけました(6/29)。何株もあって、ちょうど咲き始めたタイミングでした。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆動物園より

- ・園内に、伐採した竹を切って積んである場所があります。幼虫が枯れた竹を食べるベニカミキリには魅力的な場所のようで、ひっきりなしに飛来して、竹の上を物色するかのように歩いていました(5/4)。
- ・植栽のマルベリーにクワコの幼虫がたくさんついていました(5/10)。大きな幼虫もいて、触ると眼状紋を膨らませて威嚇してきました。
- ・上空をトビが飛んでいました(6/26)。

◆江戸川より

- ・ナゴヤサナエの羽化の観察に行きました(6/19)。10時30分から12時までの間で7個体羽化していました。羽化が始まってから飛び立つまでがとても早く、驚きました。

以上 稲村優一

◆国府台緑地(5/24)より

- ・地元主催の観察会でミズイロオナガシジミに出会いました。まだ羽化して間もないようでした。緑地の生物多様性を示す大切な存在です。
- ・緑が濃くなった緑地に、キビタキの美しいさえずりが響いていました。

◆坂川旧河口より

- ・前日に台風が通過して関東一帯に大雨が降り、江戸川の水位は高く、坂川の旧河道の水位も高くなっていました(6/4)。河道のまわりにあるカニ穴も水没していましたが、カニたちは元気に姿を見せてくれました。鮮やかなオレンジ色のベンケイガニでした。アカテガニを思わせる体色の個体もいましたが、至近距離で確認した個体はすべて甲羅の側縁、眼窩外歯の後ろにはっきりとした歯(切れ込み)があり、間違いなくベンケイガニでした。

以上 金子謙一

5月は晴れて暑い日が多く、このまま真夏になるかと思われましたが、梅雨入りは平年並みの6月7日頃、梅雨らしく雨が降り、肌寒い日もありました。

6月には嚴重警戒の台風が3個も接近し、市内で道路冠水が起きました。3日(6号)と27日(7・8号)に自然博物館、動物園は臨時休館・休園しました。

ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



＜行事のご案内＞

長田谷津は、大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

○長田谷津散策会

（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前

午前10時

解散：集合と同じ場所で

午前11時30分

○湿地の環境整備を

お手伝いしていただきませんか

（要問合せ・荒天中止）

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。

たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は・・・お電話で博物館までお問合せください。

○絶滅危惧種の保全活動（荒天中止）

詳しくはホームページをご覧ください

・スナヤツメ・レスキュー

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

・ホトケドジョウ・レスキュー

集合：観賞植物園 午前10時

解散：集合と同じ場所で 正午

	長田谷津 散策会	湿地 環境整備	スナヤツメ レスキュー	ホトケドジョウ レスキュー
8月	8日（土）	おやすみ	おやすみ	おやすみ
9月	13日（日）	26日（土）	12日（土）	27日（日）
10月	17日（土）	25日（日）	18日（日）	24日（土）
11月	15日（日）	28日（土）	14日（土）	29日（日）
12月	12日（土）	20日（日）	13日（日）	19日（土）
1月	17日（日）	30日（土）	16日（土）	31日（日）
2月	13日（土）	28日（日）	14日（日）	27日（土）
3月	14日（日）	27日（土）	13日（土）	28日（日）

第39巻 第3号（通巻第225号）

令和8年8月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
（市川市教育委員会教育振興部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477